

給付の適正化

- ・ケアマネの指導・育成の機会を設けるべき。
- ・主任ケアマネの育成、更新研修をもっと増やすべき。
- ・ケアマネの資質向上に努め、プランの点検ではなくケアマネに寄り添う姿勢を示すべき。
- ・重度化防止、自立支援の観点から、言われたままにサービスを入れることが本人にとってマイナスであることを市民に周知すべき。
- ・地域ケア推進会議は、ケアプランチェックだけでなく、地域課題の抽出、対応を行うべきものである。

文書負担軽減・災害

- ・国・県から同じような内容の照会があるが、様式が異なっていて作成の手間がかかる。また、市、消防、警察との情報共有ができていない。
- ・避難所での3密を避けるための対策はどのようなか。

人材確保

- ・介護業界も処遇改善が進んでいるが、いまだに昔のイメージを引きずっている。市からも現状をPRしてもらえるとありがたい。
- ・特養おきなでは、新規採用ではなく転職組の採用に当たり、県のチャレンジ事業を活用している。学校に行くと国・県の補助があり、採用につながったケースがあった。市報などでPRしてもよいのでは。
- ・平成30年度に実施した「担い手養成研修」の実施は考えていないのか。

介護離職ゼロ

- ・特養待機者を受け入れるため、特養を計画しないと決めつけるのではなく、もっと柔軟に考えるべきではないか。

災害

- ・他市の施設も含め、広域的な避難についての協力体制が必要ではないか。

その他

- ・「通いの場」は高齢者だけでなく、子ども、障がい者などを含めた「ごちゃまぜ」でないと週1回の開催は難しい。

### 給付費・保険料

- ・ 予定収納率はどのくらいか。
- ・ 介護保険料が高い。

### 重点目標

- ・ 人材確保、採用人数の目標人数 20 人が分かりづらい。転職者を含めてなのか。
- ・ 重点目標の数字に根拠がない。

### 素案について

- ・ 計画の趣旨に、「消滅可能性都市」を入れるべき。
- ・ P26 サロンについて「ごちゃまぜ」、新規増などもう少し具体的な方向性を示すべき。
- ・ 日常生活圏域と包括圏域が一致していない。
- ・ P29 いきいき元気サポーター ボランティアをバラバラに作るのではなく、市民が必要としているボランティアを養成すべき。ボランティアに町を守ってもらいたいと伝えるべき。
- ・ シルバー人材センターの会員数が少ない。
- ・ P65 認知症対応型通所介護について、R5 からサービスが急増する理由を示すべき。
- ・ P44 乳酸飲料配達サービスは手渡しができているなどの問題がある。
- ・ 敬老祝金の見直しが必要である。時代も違い、家族の在り方も変化している。金婚夫婦の表彰も不要ではないか。
- ・ パブリックコメントの実施にあたり、計画の概要版の作成が必要である。